

報道関係者各位

## 令和6年度「学生生活調査」「高等専門学校生生活調査」 「専門学校生生活調査」結果の公表について

このたび、独立行政法人日本学生支援機構では、全国の学生・生徒を対象として実施した、令和6年度「学生生活調査」「高等専門学校生生活調査」「専門学校生生活調査」の結果を取りまとめましたので、下記のとおり公表いたします。

### 記

#### 1. 調査の概要

- (1) 調査目的：全国の学生を対象として、学生生活状況を把握することにより、学生生活支援事業の充実のための基礎資料を得る。
- (2) 調査対象：学生生活調査…大学学部、短期大学本科  
学生生活調査（大学院試行）…大学院の学生  
高等専門学校生生活調査…高等専門学校（第4、5学年）本科の学生  
専門学校生生活調査…専門学校（専修学校専門課程）の学生  
※ 社会人学生を含む。通信課程、休学者及び外国人留学生を除く。
- (3) 調査時期：令和6年11月（隔年調査）
- (4) 調査方法：調査対象学生を無作為抽出し、Webシステムで調査を実施
- (5) 有効回答率：学生生活調査（大学院試行含む）…18.1%  
高等専門学校生生活調査…23.7%  
専門学校生生活調査…41.7%
- (6) 調査内容：○経済状況について  
学生生活費(学費と生活費の合計)、学生の収入状況、  
アルバイト従事状況、奨学金の受給状況  
○生活状況について  
通学時間、週間平均生活時間、大学の学生支援体制への満足度、  
学生の不安や悩み（週間平均生活時間以外は学生生活調査のみ実施）

※調査結果は以下のウェブサイトでご覧になれます。

[https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei\\_chosa/2024.html](https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/2024.html)

**独立行政法人 日本学生支援機構（JASSO）**

学生生活部 学生支援企画課／堤・平野

TEL : 03-5520-6169 <https://www.jasso.go.jp/>

## 2. 調査結果の一例

### (1) 経済状況について

1年間（令和5年12月～令和6年11月）の収入、学生生活費（支出）ともに、前回（令和4年度）調査と比較して、大学学部昼間部、短期大学昼間部、高等専門学校、専門学校で増加しました。

#### 【1年間の収入】（大学院課程別は、試行調査の結果となる）

学校種	令和6年度調査	
	学生の収入額	前回調査との比較
大学学部昼間部	2,030,100円	62,700円増 (+3.2%)
短期大学昼間部	1,729,500円	108,800円増 (+6.7%)
高等専門学校	886,900円	61,000円増 (+7.4%)
専門学校	1,892,800円	82,500円増 (+4.6%)

大学院課程別	区分※	令和6年度調査 学生の収入額
修士課程	一般の学生	1,893,200円
	社会人学生	4,209,600円
博士課程	一般の学生	2,665,100円
	社会人学生	6,493,400円
専門職学位課程	一般の学生	2,130,700円
	社会人学生	7,924,900円

#### 【1年間の学生生活費（支出）】（大学院課程別は、試行調査の結果となる）

学校種	令和6年度調査	
	学生生活費	前回調査との比較
大学学部昼間部	2,019,100円	194,400円増 (+10.7%)
短期大学昼間部	1,624,600円	132,200円増 (+8.9%)
高等専門学校	876,400円	118,500円増 (+15.6%)
専門学校	1,806,700円	115,600円増 (+6.8%)

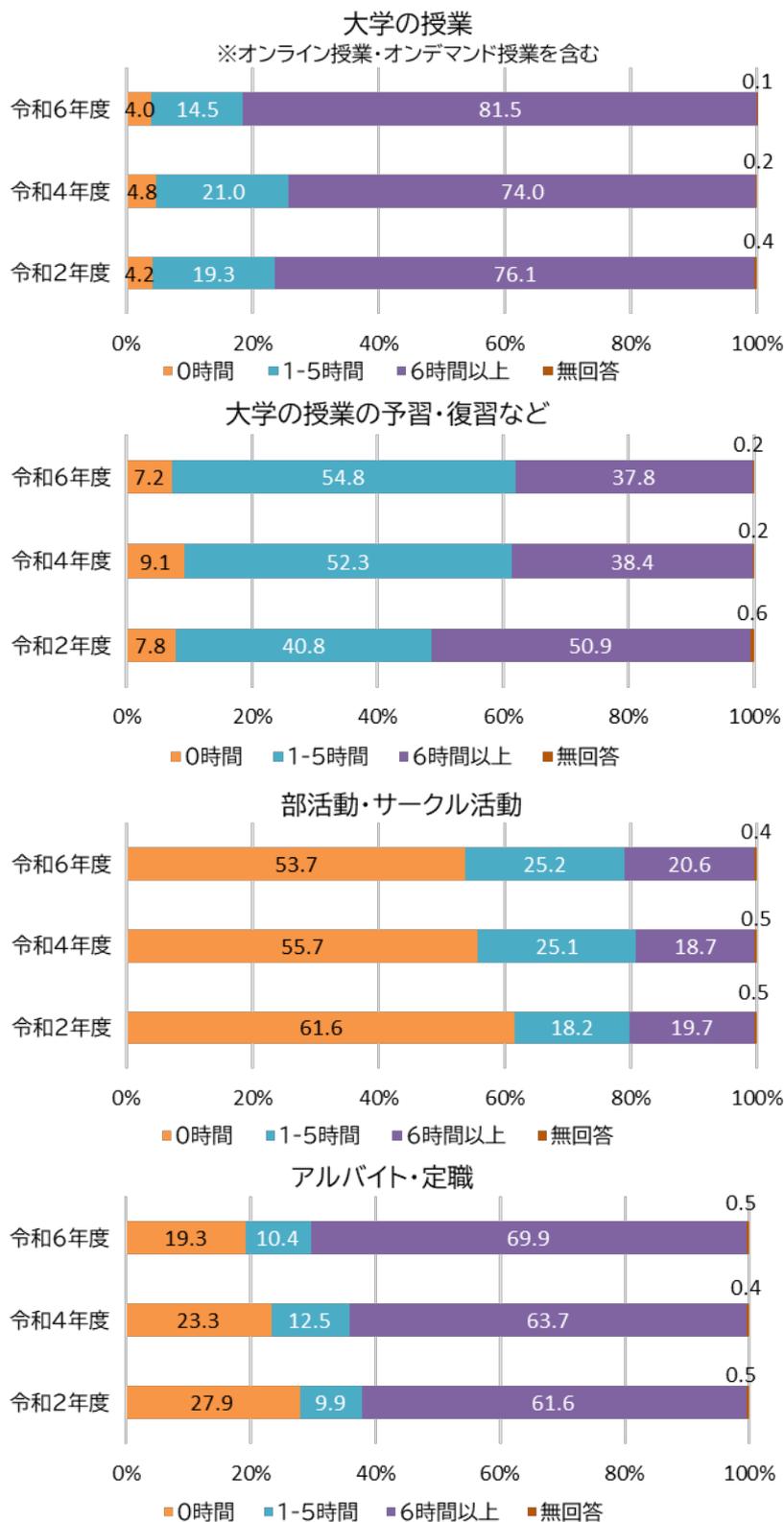
大学院課程別	区分※	令和6年度調査 学生生活費
修士課程	一般の学生	1,737,400円
	社会人学生	2,750,900円
博士課程	一般の学生	2,077,900円
	社会人学生	3,394,600円
専門職学位課程	一般の学生	1,975,700円
	社会人学生	4,006,500円

※大学院課程の調査結果は、次により区分しています。

- ・一般の学生：「社会人経験（就業経験）」に関する設問で、「以前、職に就いていたが、現在は退職して学んでいる」、「職に就いた経験はない」と回答した学生。
- ・社会人学生：「社会人経験（就業経験）」に関する設問で、「現在、職に就きながら学んでいる」と回答した学生。

(2) 1週間のうち学業等の活動に充てた時間（大学昼間部）

コロナ禍初年の令和2年度、及び令和4年度、コロナ禍明けの令和6年度で、以下のように推移しています。「大学の授業」の6時間以上については、コロナ禍明けの令和6年度では増加傾向にあります。また、「部活動・サークル活動」や「アルバイト・定職」の時間は、令和2年度に減少し4年度は増加していますが、令和6年度はより増加傾向にあります。



## (3) 大学の施設や学生支援体制への満足度（大学昼間部）

コロナ禍初年の令和2年度、及び令和4年度、コロナ禍明けの令和6年度で、以下のように推移しています。「図書室・自習室などの学習支援施設」については、「満足」及び「やや満足」の割合が令和4年度より増加していますが、他方、「キャリアセンターなどでの就職・進路への支援」や「学習・生活面でのカウンセリング」、「奨学金等の経済的支援に関する情報提供」では「満足」及び「やや満足」の割合が令和4年度よりも減少しています。

